

株主メモ

証券コード	3048
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月
上記基準日	毎年8月31日
配当金受領 株主確定日	毎年8月31日 (ただし、中間配当を行う場合は2月末日)
株式の売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主事務に関するお問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告の掲載方法	当社ホームページ (http://www.biccamera.com/bicbic/jsp/w/ir/index.jsp) に掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公 告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載 します。



<http://www.biccamera.com/bicbic/jsp/w/ir/index.jsp>
当社株主・投資家向サイトでは決算短信、IRニュース、財務情報など、
様々な情報を発信しております。

第26期 事業報告書

平成17年9月1日～平成18年8月31日

ビックカメラ

東京都豊島区高田三丁目23番23号

R100
古紙配合率100%再生紙

PRINTED WITH
SOY INK
環境に配慮した「大豆油インキ」
を使用しています。

ビックカメラ

証券コード:3048

お客様第一主義

を実践し、最高のサービスをお客様に提供することで
社会に貢献する

一人ひとりのお客様を大切に、
最高の満足と喜び
を感じていただけるよう、
笑顔と真心を込めた言葉で接します

より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの
専門店の集合体

CONTENTS

2	ごあいさつ
3・4	トップメッセージ
5・6	店舗展開
7・8	成長戦略
9	グループ企業情報
10	営業の概要／トピックス
11・12	財務諸表(連結/単体)
13	財務ハイライト/会社概要
14	株式の状況/株主優待情報

ごあいさつ



私ども株式会社ビックカメラは、2006年8月10日にジャスダック証券取引所に上場いたしました。これもひとえに、お客様、お取引先様、関係者の皆様のご支援、ご指導の賜物と厚くお礼申し上げます。

当社は、1980年11月にカメラ、家庭用電気製品等の販売を行うことを目的として東京池袋に設立しました。創業以来、一貫して「お客様第一」主義を企業理念として、「安さ」「品揃え」「接客サービス」にこだわりを持って取組んで参りました。最も販売効率の高い立地（主要ターミナル駅近接地）で販売を行うことを基本方針として事業を進め、「3割4割引はあたりまえ!」という分かり易いキャッチフレーズを用いて広く消費者の皆様の認知をいただいて参りました。

今後は、IT化、ネットワーク化が進展する中、個人の生活様式や価値観はますます多様化していくものと予想されます。まだまだ成長途上にある当社といたしましては、この変革の時代を将来に向けた事業拡大の契機と捉えております。そして、こうした時代だからこそ、今一度、「お客様第一」の原点に立ち返るとともに、簡素効率を旨としたスピード感を持った経営を行い、お客様の目線で、時代の変化に素早く対応する決意であります。「ショッピングは最大のレジャー」であるとの認識のもと、お一人でも多くのお客様に“驚き”を感じていただけるような魅力ある店作りを行い、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して、果敢にチャレンジして参ります。

代表取締役社長 宮嶋 宏幸

お客様の目線で、
時代の変化に素早く対応します

●専門性に裏付けられた販売力

当社は将来に向けて最も重要な経営資源は“人材”であると考えております。当社の特長である人的資源「専門性に裏付けられた販売力」に一層磨きをかけること、すなわち商品知識及び接客技術の向上を行っていきます。当社独自の社内資格である専門相談員については、現在約700名、売場販売員の25%を占めております。また、さらなる専門知識の一層の向上に向けて、公的資格である「家電製品アドバイザー」の資格取得者を更に増強していく方針であり、こうした取り組みにより、販売力に磨きをかけて参ります。

●魅力的な店作り

当社は幅広く豊富な品揃えを有しておりますが、その商品を実際に体験・体感・比較できる売場作りができることも当社の強みの一つです。お客様に納得して商品をご購入いただくため、またショッピングという最大のレジャーをより楽しいものとしていただけるような演出にも工夫を凝らして参ります。

●「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗展開

当社の出店は、「都市型」×「駅前」×「大型」を基本として、全国でも人口が集中した地域を中心に展開しております。特に、東京山手線沿線に多く出店しているのが特徴です。この「都市型」×「駅

前」×「大型」の店舗の特長としては、曜日による来店客数の格差が比較的少なく、稼働効率が良い点があげられます。つまり「平日に落ち込みが少なく週の売上が安定している」ことです。土日以外も集客を見込める都市型は、人員を平均的に厚く配置できるメリットがあります。このように、常に高い集客が望める店舗の特性を生かすべく、計画的リニューアルによる既存店の強化を図るとともに、新店舗の開発についても積極的に取り組んでいきます。

今年8月には藤沢店、9月にはラゾーナ川崎店を開店いたしました。いずれも10,000m²を超える店舗で、両店舗とも順調にお客様に足を運んでいただいております。また、来年8月には、京阪神地区で2

番目の店舗を京都に出店する予定です。JR京都駅のホームと売場がエスカレーターで直結した、非常に立地条件の良い店舗となります。さらに、2007年9月に当社グループの(株)ソフマップが秋葉原に新生ソフマップのシンボルとして店舗面積6,000m²の大型店舗を出店します。また、2008年3月にはビックカメラ新横浜店が現在建設中の新駅ビルに移転する予定で売場面積も現在の約3倍になります。これ以外にも出店候補地を選定し、店舗展開を行って参ります。

●アグレッシブな企業イメージ

商品の安さ、豊富な品揃え、活気のある店作り、そして専門販売員の的確な接客は、“お客様第一”ということを実現させるための当社が基本とするスタイルです。その姿勢が高く評価され、当社は、日本経済新聞社・日経産業消費研究所による「日経企業イメージ調査」において、「活気がある企業」としてビジネスマン、一般個人いずれでも5年連続で第1位に選ばれました。当社は、「お客様に喜んでいただくにとどまらず、驚き、感動を与えられるサービスを追求し続けていく」ということを、常に念頭においています。今後も社員一同、お客様に最高の満足と喜びを感じていただきたいという思いにとことんこだわり、このような名誉ある評価をいただける会社であり続けるよう努力して参ります。

1
「活気がある企業」5年連続
1位

活気がある企業	ビジネスマン調査	1位
	一般個人調査	1位

ラゾーナ川崎プラザ 最大のテナントとして出店

JR川崎駅周辺地域は、JR東海道線・JR京浜東北線・JR南武線・京浜急行電鉄本線・京浜急行電鉄大師線が乗り入れ、乗降客一日42万人を有する神奈川県内屈指の商業の中心地です。

「ビックカメラ ラゾーナ川崎店」は、JR川崎駅と直結した約300のテナントを有する超大型商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」の最大テナントとして、「ショッピングは最大のレジャー」と



このコンセプトのもと、カメラ・パソコン・家電・通信ほか、おもちゃ・スポーツ用品・スポーツサイクル・寝具・酒等「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指します。

店長からのコメント

「ラゾーナ川崎店はビックカメラでは初となる、大型商業施設に出店した画期的な店舗です。特徴としてカメラコーナーでの超望遠レンズコーナーの常設や最高級オーディオ体感コーナー、また酒コーナーへのバーカウンターの設置など、ビックカメラ初の試みを充実させました。他店舗で好評の比較・体感・実演・相談コーナーもより進化・充実させ、お客様にとって商品一つ一つが体感できてわかりやすい店舗にして参ります。」



2006年 9月28日(木) オープン
ビックカメラ ラゾーナ川崎店



2006年 8月4日(金) オープン
ビックカメラ 藤沢店

店長からのコメント

「地元出身で学生時代から藤沢駅周辺をよく利用しており、入社時の面接で、『藤沢にビックカメラを出店させ、その店の店長をやりたい』と言っていたほど、今回の出店に対して熱い思いを持っています。お客様に楽しんでいただける商品実演や、旧製品との比較コーナーはもとより、お客様が普段の生活で困っていること、疑問に思っていること、知りたいことが気軽に相談でき、一人ひとりのお客様に合った心地よさ、豊かさをお届けできる店舗にして参ります。」

コンセプトは「毎日の暮らしを心地よく、快適にする」



JR藤沢駅周辺地域は、JR東海道線・小田急江ノ島線・江ノ島電鉄が乗り入れ、乗降客一日35万人を有する神奈川県下有数のターミナルで湘南地区の商業の中心地です。

「ビックカメラ藤沢店」は、「毎日の暮らしを心地よく、快適にする」をコンセプトに、「ショッピングは最大のレジャー」と位置付け、カメラ・パソコン・家電・通信ほか、おもちゃ・スポーツ用品・スポーツサイクル・寝具・お酒等の「専門店の集合体」として、地元の皆様から愛される店舗を目指します。

1

店舗展開

「都市型」×「駅前」×「大型」の出店戦略

年間2店舗程度大型店を出店していくことを目標に「都市型」×「駅前」×「大型」の出店戦略を展開します。

- 藤沢店 2006年8月
- ラゾーナ川崎店 2006年9月
- 京都店（仮称） 2007年8月（予定）
- ソフマップの秋葉原新店舗 2007年9月（予定）
- 新・新横浜店 2008年3月（予定）



ビックカメラ京都店（仮称）（イメージ図）

2

ポイントカード

ポイントカード会員は1,800万人超

店舗・ネットのポイント共通利用などで、利便性向上と他社差別化を図ります。

利便性を追求した最強のカード
ビックカメラSuicaカードは17万件を超える申し込み

「ビックポイントがSuicaになる」、「クレジット払いでも現金払いと同率以上のポイントが貯まる」などの利便性により、新規獲得、ポイントカードからの切替を促進して参ります。



3

ネットショッピング

ネットショッピングは毎年一貫して高い伸びで推移

店舗とネットのポイントの共通利用を始め、検索上位への取組み強化と、品揃えの増強により、シェアアップを目指します。



4

新物流センター

新センターへ物流機能を集約

新物流センター（埼玉県東松山市）の稼動により、3箇所に分散していた物流機能を新センターに集約し、コスト削減と在庫削減及び二酸化炭素等の排出量の削減を実現します。



5

株式会社ソフマップ

子会社化で、両社にとってのシナジー効果を期待

当社にとっては中古商品やソフトビジネスにおけるノウハウを取り入れるメリットがあり、また(株)ソフマップにとっては新品商品の共同仕入れや条件改善、非PC商品の取扱も強化できるなど、両社に大きなメリットが期待できます。



6

日本ビーエス放送株式会社

2007年12月1日からBSデジタルハイビジョン放送開始

番組のコンセプトは大人のプライベートライフの充実です。政治、経済、映画・アニメ、芸術、ドキュメンタリー、スポーツなどの番組をフルスペックハイビジョンで提供します。



Computer

2006年2月当社グループに参加。パソコンを中心とした、中古・新品のデジタル機器の販売。特に、リユース事業については、デジタル機器全般に取扱商品を拡大することにより、業界トップの地位を確立しています。



株式会社 ソフマップ

Down

原料の「うもう」にこだわり、世界的に名高いポーランドに子会社「ユーロコンフォート」を設立し、現地のグースダウンだけを使用。ダウン混合率の限界値95%を達成した限りなくピュアな「うもう」ふとんをたいへんお得な価格で提供しています。



株式会社 生毛工房

Liquor

ビック酒販は「とびっきりのお酒」をテーマに世界各国の多彩なお酒を取りそろえ、お客様のニーズやライフスタイルに合わせたお酒の提案や情報を発信しているお酒の専門店です。



株式会社 ビック酒販

株式会社 ビック・トイズ

子供と大人が一緒になって楽しめる玩具の専門店。0才からの知育玩具を始め、大人が楽しめるホビーまでをバラエティー豊かに取りそろえ、個性あふれる売場を展開。お客様に夢やファンタジーの世界を感じていただける店づくりを目指しています。



株式会社 ビック・スポーツ

ゴルフ、テニスを中心としたスポーツ用品や、スポーツサイクルを主力とした自転車の販売を展開。高度な専門性を追求し、さまざまなニーズに応えるとともに、お客様の良き相談役として安心してご利用いただける店づくりを目指しています。



株式会社 東京サービスステーション

家電の修理・工事のプロフェッショナル。ビックカメラで販売した商品のアフターサービスを担当。商品のセッティングから故障や不具合まで、ご購入後のさまざまな「困った」を解決する、「アフターケアのプロ」集団です。



Toys

Sports

Service

Media

日本ビーエス放送株式会社

1999年に設立したBS・CSデジタル放送局から、2007年からはBSデジタルハイビジョン放送局へと生まれかわります。大人のプライベートライフの充実を番組のコンセプトとしch11一発選局の利便性を活かし、政治、経済、映画・アニメ、芸術、ドキュメンタリー、スポーツなどの番組をフルスペックハイビジョンで提供します。



より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体

営業の概要

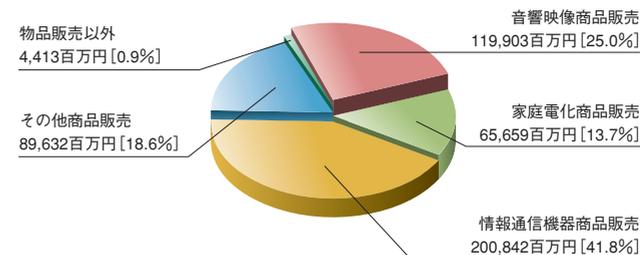
当連結会計年度におけるわが国経済は、原油価格の高騰や長期金利の上昇等があったものの、企業収益の改善や設備投資の増加等により、景気は概ね回復基調で推移しました。

家電小売業界では、地上デジタル放送の放送地域の拡大により、大画面薄型テレビが好調に推移しました。また、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等家庭電化商品についても高付加価値商品の登場もあり堅調に推移しました。一方、パソコン関連商品については店頭価格の下落、新OSの発売の遅れもあり、やや低調でした。

このような環境下、当社グループは、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」の一層の強化を目指して、価格・品揃え・接客・サービス・店作りにおいて、お客様に更にご満足いただけるよう改善を重ねてまいりました。

また、当社は、平成18年2月28日に株式取得により株式会社ソフマップを子会社化し、当連結会計年度から、同社を連結の範囲に加えております。

店舗展開としては、「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗を年2店舗程度開店する方針のもと、平成18年8月4日に藤沢店（神奈川県）を、平成18年9月28日にはラジーナ川崎店（神奈川県）を開店いたしました。また、平成18年10月23日に東松山商品センター（埼玉県）を稼働いたしました。一方、当社グループの株式会社ソフマップの不採算店舗を10店舗閉鎖し、グループの店舗効率化に努めました。



また、当社は平成18年8月10日にジャスダック証券取引所に上場し、21,850百万円の増資を行い、当社及び当社グループの財務基盤強化に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は480,453百万円（前年同期比10.9%増）となりましたが、株式会社ソフマップの当社グループへの参加に伴う諸経費の増加、広告宣伝費・販売促進費の戦略的投下、株式上場に伴う費用等があり、経常利益は12,729百万円（前年同期比13.5%減）となりました。また、当連結会計年度は減損会計導入に伴う損失を計上しておりますが、前連結会計年度のような関係会社整理に伴う固定資産評価損、不動産流動化に伴う出資金評価損等の計上がないため、当期純利益は6,007百万円（前年同期比96.2%増）となりました。

Topics トピックス

■TBS (株式会社東京放送) と業務提携

双方の経営資源を効果的に活用し、新たな顧客サービスの向上を目指します。

- ①ビックカメラ店舗でのTBSオリジナル映像の放映
- ②ビックカメラ店舗へのTBSストアの出店
- ③インターネットサイトの相互リンク
- ④オリジナル商品の共同開発・販売



■「プライバシーマーク」を取得

当社は、情報セキュリティの重要性を認識し、各事業において個人情報の取り扱いについては慎重を期しております。個人情報保護法の完全施行に伴い、さらなる個人情報の保護・管理を重視した社内体制整備を経営の重要課題の一つとして掲げ、その一環として「プライバシーマーク」を平成18年9月26日付で取得しました。



連結 貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	第26期	第25期
	平成18年8月31日現在	平成17年8月31日現在
資産の部		
流動資産	93,262	74,413
固定資産	97,376	71,964
資産合計	190,639	146,377
負債の部		
流動負債	105,932	90,829
固定負債	41,443	42,723
負債合計	147,376	133,553
少数株主持分	—	957
資本の部		
資本金	—	1,050
資本剰余金	—	623
利益剰余金	—	9,706
その他有価証券評価差額金	—	487
資本合計	—	11,867
負債、少数株主持分及び資本合計	—	146,377
純資産の部		
株主資本	40,221	—
資本金	12,548	—
資本剰余金	12,122	—
利益剰余金	15,551	—
評価・換算差額等	1,655	—
少数株主持分	1,385	—
純資産合計	43,262	—
負債純資産合計	190,639	—

連結 損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	第26期	第25期
	自平成17年9月1日 至平成18年8月31日	自平成16年9月1日 至平成17年8月31日
売上高	480,453	433,186
売上原価	364,296	327,513
売上総利益	116,156	105,672
販売費及び一般管理費	104,072	89,947
営業利益	12,084	15,724
営業外収益	3,386	3,226
営業外費用	2,741	4,232
経常利益	12,729	14,717
特別利益	543	124
特別損失	1,392	7,939
税金等調整前当期純利益	11,880	6,902
法人税、住民税及び事業税	6,875	5,561
法人税等調整額	△786	△1,615
少数株主損失	217	106
当期純利益	6,007	3,062

連結 キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	第26期	第25期
	自平成17年9月1日 至平成18年8月31日	自平成16年9月1日 至平成17年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,336	10,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,177	△91
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,182	△3,402
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	6
現金及び現金同等物の増加額	5,364	6,651
現金及び現金同等物の期首残高	27,545	20,893
合併による現金及び現金同等物の増加額	198	—
現金及び現金同等物の期末残高	33,108	27,545

連結 株主資本等変動計算書(自平成17年9月1日 至平成18年8月31日) (単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
平成17年8月31日残高	1,050	623	9,706	11,380	487	957	12,824
連結会計年度中の変動額							
新株の発行	11,498	11,498	—	22,996	—	—	22,996
剰余金の配当	—	—	△158	△158	—	—	△158
当期純利益	—	—	6,007	6,007	—	—	6,007
その他	—	—	△3	△3	—	—	△3
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	1,168	427	1,596
連結会計年度中の変動額合計	11,498	11,498	5,845	28,841	1,168	427	30,438
平成18年8月31日残高	12,548	12,122	15,551	40,221	1,655	1,385	43,262

単体 貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	第26期	第25期
	平成18年8月31日現在	平成17年8月31日現在
資産の部		
流動資産	77,290	62,148
固定資産	88,669	71,687
資産合計	165,959	133,835
負債の部		
流動負債	89,439	83,535
固定負債	33,961	38,384
負債合計	123,401	121,919
資本の部		
資本金	—	1,050
資本剰余金	—	623
利益剰余金	—	9,755
その他有価証券評価差額金	—	487
資本合計	—	11,916
負債資本合計	—	133,835
純資産の部		
株主資本	40,853	—
資本金	12,548	—
資本剰余金	12,122	—
利益剰余金	16,183	—
評価・換算差額等	1,704	—
純資産合計	42,557	—
負債純資産合計	165,959	—

単体 損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	第26期	第25期
	自平成17年9月1日 至平成18年8月31日	自平成16年9月1日 至平成17年8月31日
売上高	428,135	418,323
売上原価	324,659	317,758
売上総利益	103,476	100,565
販売費及び一般管理費	92,478	85,613
営業利益	10,998	14,952
営業外収益	4,271	4,334
営業外費用	2,695	4,976
経常利益	12,574	14,309
特別利益	291	88
特別損失	677	7,713
税引前当期純利益	12,187	6,684
法人税、住民税及び事業税	6,257	5,175
法人税等調整額	△656	△1,595
当期純利益	6,587	3,104
前期繰越利益	—	7,885
自己株式消却額	—	7,021
当期末処分利益	—	3,967

財務ハイライト

売上高 (百万円) 当期連結売上高 **480,453** ■ 単体 ■ 連結



当期純利益 (百万円) 当期連結純利益 **6,007** ■ 単体 ■ 連結



総資産 (百万円) 当期連結総資産 **190,639** ■ 単体 ■ 連結



一株当たり当期純利益 (円) **9,310.57 (連結)** ■ 単体 ■ 連結



会社概要

(平成18年8月31日現在)

会社名 株式会社ビックカメラ
 設立年月日 1980年11月
 資本金 12,548百万円
 従業員数 3,382名
 本社 東京都豊島区高田三丁目23番23号
 主な事業内容 カメラ、パソコン、OA機器、ビジュアル製品、オーディオ、通信機器、家電製品、時計・宝飾、メガネ・コンタクト、うもうふとん、酒、ギフト用品、玩具、スポーツ用品、スポーツサイクル等の販売

取締役及び監査役

(平成18年11月28日現在)

代表取締役会長 新井隆二
 代表取締役社長 宮嶋宏幸
 常務取締役 金澤正晃
 常務取締役 塚本智明
 取締役 野口進夫
 取締役 曾我邦夫
 取締役 加藤周二
 取締役 堀越雄之
 取締役 湯本善之
 取締役 児島仁
 取締役 有田龍郎
 取締役 生井俊重
 常勤監査役 伊藤秀行
 監査役 小松英士郎
 監査役 岸本裕紀子

株式の状況

● 発行可能株式総数 2,541,000株
 ● 発行済株式の総数 756,201株
 ● 株主数 40,910名

大株主

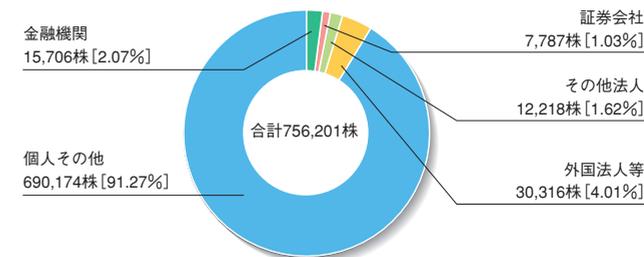
株主名	持株数(株)
新井隆二	570,055
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク	10,601
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	8,948
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウツ イー アイエスジー	5,450
みずほ証券株式会社	5,120
シージーエムエルアイピービー カスタマー コラテラル アカウツ	2,935
日本証券金融株式会社	1,897

株主優待情報

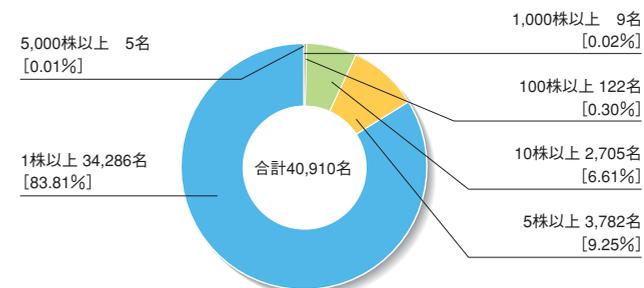
ビックカメラでは、株主の皆様の
ご支援にお応えし、株主優待制度
を新設し、株主優待券を贈呈して
おります。



所有者別株式分布状況



所有株数別分布状況



ご利用方法

- 優待券のご利用に関しては、当社におけるお買上げ代金のお支払いにご利用いただけます。
- 優待券のご利用に伴い、ビックポイントカードをお持ちの株主様には、現金でのお支払と同様に1ポイント1円に換算して次のお買い物にご利用いただけるビックポイントをお付けいたします。
- ネットショッピングサイト「ビックカメラ.com(※)」でもご利用いただけます。ご注文後優待券をご郵送いただき、対象金額をキャッシュバックさせていただきます。詳しくは、当社ホームページ内IR情報(株主優待制度)をご確認ください。
※ビックカメラ.com「<http://www.biccamera.com/>」

ご所有株式数	ご優待金額
1株以上 5株未満	3,000円 (1,000円券× 3枚)
5株以上 10株未満	5,000円 (1,000円券× 5枚)
10株以上 100株未満	10,000円 (1,000円券×10枚)
100株以上	50,000円 (1,000円券×50枚)

詳しくは同封の「株主優待のご案内」をご覧ください。